

自治体連携「対話が鍵」

東海若手
市長の会 バローHD社長講演



小池孝幸社長(右)の講演に耳を傾ける市長ら
＝可児市大森奥洞、嫩葉舎

東海若手市長の会の総会が8日、可児市大森奥洞のバロー人材開発センター

「嫩葉舎」で開かれた。講演会もあり、バローホールディングスの小池孝幸社長が自治体との連携をテーマに取り組みを語った。

同会は東海4県の主に45歳以下で初当選した50歳未満の市長ら15人で組織する。県内の会員は岐阜、各務原、美濃加茂の3市長に昨年9月に入会した高木貴行多治見市長を加えた4人。今回は多治見市が開催市となり、会長の伊藤徳宇三重県桑名市長ら会員13人が出席、4月に初当選した後藤友紀羽島郡岐南町長も

オブザーバー参加した。議事では昨年度の事業報告と収支決算の報告を承認し、次回総会は来年1月に愛知県長久手市で開くことを決めた。

多治見市に本部を置くバローHDの小池社長は、同市や県など12自治体と包括連携協定を結んだことを紹介。学校給食センターに食材を供給していることや、同HDの「ルビットアプリ」に自動で歩数が計測され、同市の健康増進事業のポイントがたまる機能を追加したことなど連携の実例を挙げた。「現場目線での困り事の把握や、できること、できないことの相互理解が大切だ」と語り、成果を出すにはコミュニケーションが鍵になると強調した。

同会は9日まで2日間の日程で多治見市の幸兵衛窯、市陶磁器意匠研究所などを視察する。(小森直人)